

南ユタ大学への短期留学プログラムに参加して

函館校 地域協働専攻国際協働グループ2年 武田紗妃子

8月26日から9月27日までの一ヶ月間、夏休みを利用して、アメリカの南ユタ大学の短期留学プログラムに参加してきました。元々アメリカに行きたいという希望がありましたが、昨年友人がこのプログラムに参加し、とても充実していたという感想を聞いて参加することにしました。私はこれまで海外経験がなかったので、渡米するにあたって新鮮に感じたことが多々ありました。以下にいくつかの項目に分けて今回のプログラムでの経験を報告します。

<到着まで>

今回の交通経路は、新千歳空港から韓国のインチョン空港を経由して、ラスベガス空港に行くというものでした。空港でも飛行機内でも乗客のマナーが気になりました。空港内では大声を出す人、列に割り込む人などが目立ちました。飛行機から降りるときは、座席周りにゴミや新聞、ひざ掛けなどが散乱していることにとても驚きました。ゴミは座席にまとめて、ひざ掛けはたたんで置いている人もいたためにそのマナーの悪さはとても目立ちました。今回、マナーが悪いと感じた人は日本人ではなかったですが、何人であろうといつでもどこでもマナーよく行動しなければいけないと思います。

<ホームステイ先>

ラスベガス空港に到着してから、南ユタ大学に到着するまで3時間から4時間ととても長い時間車に乗っていました。南ユタ大学に到着すると、それぞれのホストファミリーが迎えに来てくれていました。わたしは函館校から参加した参加者と4人同じホストファミリーでした。大学から車で約15分と多少遠い場所にありましたが、子どもが6人いると言っていたのでとても楽しみにしていました。到着した日は夜遅くに着いたのですがすぐ休んで、次の日に家族全員に挨拶しました。5歳の女の子とはすぐに仲良くなり、1カ月間ずっと一緒に遊んでいました。7歳、11歳の男の子もすぐに仲良くなってきて、トランポリンや普段遊んでいるゲームを教えてくださいましたが、まだ全く耳がネイティブの英語の速さについていけず、何回も何回も繰り返し説明させてしまったので、勉強不足だったなどと反省しています。14歳と18歳の女の子とも仲良くなることができ、子どもたちみんなとトランポリン、カードゲーム、ナイトゲームなどなど本当にたくさん遊んでコミュニケーションを取れたと思います。

食事については、朝、昼、晩とホストマザーが毎日おいしいごはんを食べさせてくれました。アメリカはカロリーの高いものを大量に食べるというイメージがあったのですが、私のホストファミリーはヘルシー志向で高カロリーなものはそれほどなく、量も少なめで

した。ただ、サラダを食べることがあまりありませんでした。実際、1カ月の滞在期間で2回ほどしか食べなかったのが野菜がとても恋しかったです。ユタはとても乾燥した気候ということに加えてビタミン不足も重なり、肌がかさかさになってしまったので、乾燥対策はしっかりすべきだったと思いました。それから、私は洗濯のことを気にしていましたが、ホストハウスの洗濯機を貸してくれたので、3日に一度くらいのペースで友達の分と一緒に洗濯をしていました。

ホストファミリーとの休日は、一度だけ教会に連れて行ってもらい、他の週は宿題に追われるという過ごし方がほとんどでした。その合間に子どもたちと遊んだり、映画を見たり、家庭菜園にブラックベリーや野菜の収穫を手伝ったりしました。野菜の収穫はほとんど体験したことがなかったのでとても新鮮で、リラックスできた経験になったと思います。また、ホストファミリーとナバホレイクという所にハイキングに行ったり、アメフト観戦に行ったりしたこともとても貴重な経験になりました。

ホストファミリーとの思い出はまだたくさんありますが、一緒に何か同じことをするとぐっと距離が縮まるものなのだと実感しました。言葉が通じなくて困ることもありました。仲良くなれると考えすぎずにすぐに言葉にできたのでいい練習になったなと感じています。英語が話せない自分たちにたくさん話しかけてくれ、コミュニケーションの機会を多く作ってくれたホストファミリーにとっても感謝しています。



<南ユタ大学>

大学の敷地はとても広く、緑があふれていて綺麗な大学でした。しかし、私たちのプログラムを担当してくれた先生や、友達に言っても、この大学はアメリカで1番と言えるほど小さいと言われ、それじゃあ私の大学はどうなるんだというほど衝撃を受けたことが強く印象に残っています。さらに学部ごとに建物が違いましたし、図書館は3階ほどまであって、パソコンはひとつの机に2つの画面。ホールには自由にくつろげるソファとテーブル、近くにはコンセントが設置されていて、大学内ではフリーWi-Fiが使い放題という学習環境の整い具合に圧倒されました。さらに、北海道教育大学は学部ごとに5つのキャンパスに分かれているので、他のキャンパスで他の専攻を勉強している人と関わることはまずありませんが、南ユタ大学では他専攻の人とも友達になれるので視野も自然に広がるの

ではないかと羨ましく思いました。また、留学時期が新学期だったこともあり、大学内ではバーベキューや、カラオケナイト、ムービーナイトなどたくさんのイベントが開催されていました。私はホームステイ先の都合で大学のイベントにはほとんど参加できませんでしたが、とても楽しそうな企画ばかりだったので絶対に参加すべきだと思います。大学の行事に参加することで友達も多くできると思います。私はイベントに参加した友達の紹介で現地の友達を作ることができました。日本が好きな学生や、来日経験がある学生は話しかけてくれることがありましたが、それ以外は私たちのことを日本人と認識してくれる人が少なく、中国人や韓国人に間違われることが多かったですし、話しかけてもらえることは稀なので自分から積極的に行動することが必要だと実感しました。

また、南ユタ大学は部活動が盛んでした。体育館は広く、バスケットコートがたくさんあり、トレーニングジムや水泳プールなど運動できる環境も整っていました。また、ホストファミリーとアメフト観戦に行った際は、SUUグッズが販売されていたり、スクリーンでスポンサーのCMを流していたりと地域が大学をバックアップしているんだと感じました。学生の応援にも熱が入っていて大学に対する愛と誇りが感じられました。日本の大学ももっと地域と連携して、勉強以外のこともバックアップしてくれたらもっと活気づくのではないかと思いました。日本とアメリカ、様々な面において規模の違いはあると思いますが、見習う点も数多くあると思いました。



<プログラムの授業内容>

今回のプログラムでは、ユタの歴史や文化、芸術を学ぶ機会が多かったように思います。教室で先生がユタの伝統や文化を教えてくれることもありましたが、外に出て絵を見に行ったり感想を英語で説明したり、ミュージアムに行ったり歴史的な生活家電を見たりとアクティビティもありました。毎週土曜日には国立公園にハイキングに出かけ、私は人生初ハイキングだったのでとても魅力的な経験になりました。

プログラム全体では、発表の機会がとても多かったです。2回のプレゼンテーション、ESLクラスでの2回のレッスン、さらにエッセイの作成と、予想よりかなりハードな課題が出されました。ネイティブスピーカーの前での発表もあり、準備にはかなり時間をかけました。ホストファミリーに原稿のチェックをお願いしたので、コミュニケーションをと

るよい機会にもなったと感じています。

しかし、今年は授業のシラバスの変更が多くありましたし、授業全体を通して何を最終目標としているのかわからないと思うことも多かったです。また、昨年の報告書によると週1回のペースでESLクラスの授業を受けていたということでしたが、今年は私たちの発表のみで授業を受ける機会はなかったのが残念でした。日本人だけの授業ではなくて他の留学生と一緒に授業を受けることで何か違う刺激が受けられると思うので、来年はそのような授業を取り入れてほしいと思いました。

<最後に>

今回のプログラムで知らない環境に飛び込むことの怖さと、楽しさを体験することができました。私は英語が話せないので言葉の不安がありましたが、たどたどしくても伝えようとする意志があれば相手もそれに答えてくれるのだと思います。意思疎通ができたときはとても嬉しかったですし、あらゆることが新鮮に感じられてとてもエキサイティングな4週間でした。これから先も飛び込んでいく楽しさやチャレンジ精神を忘れずに、様々なことに挑戦したいと思っています。